

Title	MOT・COE・フォーラム(シンポジウム：インスティテューションナル技術経営学)
Author(s)	圓川, 隆夫
Citation	年次学術大会講演要旨集, 19: 291-293
Issue Date	2004-10-15
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/6994">http://hdl.handle.net/10119/6994</a>
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	シンポジウム



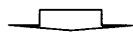
## シンポジウム

### MOT・COE・フォーラム

圓川 隆夫（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授・研究科長、21世紀COE研究拠点サブリーダー）

#### 本学におけるMOT設立に向けての経緯

- 21世紀の個性輝く東京工業大学検討委員会田町地区将来構想検討部会「社会人教育WG」報告として、MOTの専門職大学院の設置を提言（平成14年6月）
- 科学技術振興調整費「エンジニアリング知的財産講座」が採択（平成14年8月）、平成15年4月より、大学院修士課程知的財産マネジメントプログラムがスタート
- 材料系21世紀COEプログラムにおけるPMコースのスタート
- 経済産業省／三菱総合研究所「技術経営プログラム」における「技術経営戦略」、「国際知財」、「R&Dと知的財産戦略」が採択、MOT教材の開発が進む
- 平成15年2月に全学的なMOT等設立準備ワーキンググループが発足、同年5月に報告書
- 東京工業大学技術経営（MOT）フォーラム開催（平成15年10月16日） 参加者：597名（企業374名、官公庁25名、協会・団体25名、他大学43名）
- 東京工業大学大学院技術経営研究科（仮称）設立準備会設置（平成16年2月）



東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科平成17年4月（設置予定）

#### 東京工業大学大学院

#### イノベーションマネジメント研究科（設置予定） の目的と特色

イノベーション創出サイクル

技術 + 知財 + 事業  
創造 権利化・戦略的活用 新規ビジネス開拓

##### ●目的

我が国産業が国際競争力を維持・発展させる上で必要不可欠な、技術の創造からその戦略的活用、そして事業化までのイノベーション創出サイクルのマネジメント（MOT）に卓越した人材育成と、日本型強みを取り込んだMOT研究の実施

##### ●特色

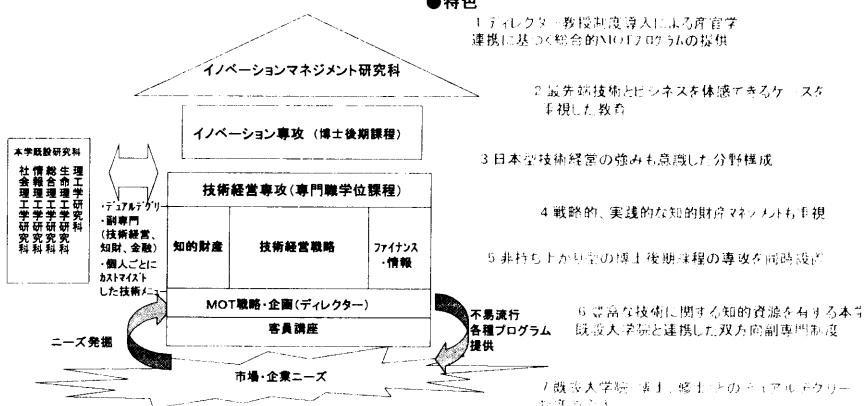
1 ディレクター教授制度導入による育成学  
連携に基づく総合的MOTプログラムの提供

2 最先端技術とビジネスを体感できるケースを  
手視した教育

3 日本国技術経営の強みも意識した分野構成

4 戦略的、実践的な知的財産マネジメント重視

5 非特有上カリキュラムの博士後期課程の導入を同時設置



## イノベーションマネジメントの教育課程の5つスキルとリーダシップ

技術  
経営  
戦略  
分野

### (4) 技術経営戦略



#### イノベーション創出サイクル

##### (1) 技術 + (2) 知財 + (3) 事業

創造 権利化・戦略的活用 新規ビジネス開拓

知的財産分野

### +リーダシップ

(5)

### ファイナンス・情報

ファイナンス・情報分野

## 期待される効果

### ●人材育成

波及効果

既設大学院の学生に副専門  
やデュアルデグリーを提供する  
ことによって、技術の一つ専門  
に加えて、幅広い問題意識を  
もった修士、博士の輩出



技術を核とする製造業を中心  
とした技術開発の第一線、技  
術の事業化や戦略的提携等で  
リーダーとして活躍でき、将  
来のCTOやCEOになり得る人材



企業や自治体、国際  
機関で技術をベースに  
した産官学連携を推  
進するリーダー



絶対数が不足してい  
ると言われるMOTの  
教育を行い、世界に  
通用する日本型MOT  
の教育研究者

イノベーションマネジメント研究科(設置予定)

イノベーション専攻(博士後期課程)

知的財産

技術経営戦略

技術経営の経験豊富な  
社会人エグゼクティブ

技術経営専攻(専門職学位課程:修士)

専門技術を修めた学生・  
留学生

技術開発やものづくりに経験を  
有する社会人

### ●研究拠点

イノベーション専攻を中心に、全学と連携しながら、米国流のMOTを長所を取り込みながら、我が国の強みを加えた  
日本型MOTの研究と、それを世界価値とするための体系化、理論研究を実行するCOEを目指す

### ●社会貢献

ディレクター教授を中心とした企画立案による企業ニーズに応じた様々なMOTおよび技術に関連した短期認証プログ  
ラム等を、本学ならびに産官学連携のもとにタイムリーに提供し、社会貢献を図る

## イノベーションマネジメント研究科(設置予定)とSIMOT

[A] 基盤研究 [B] 国際的コラボレーション [C] MOT研究科との連携

### 研究のアウトプット

「技術イノベーション創出サイクルとインスティテューションとの  
共進のダイナミズム」

「解明」 → 「可視化・操作化」 → 「世界価値に昇華」

### 教育のアウトプット

世界に通用する  
インスティテューション技術経営に関する  
① MOTリーダー  
② 国際実践リーダー  
③ 先端研究者  
を30人以上輩出

### 波及効果

MOT研究科の  
MOT教育研究の  
内容を大きく飛躍

インスティテューションの異なる国でも適用可能な世界価値に昇華する  
「インスティテュショナル技術経営学」(SIMOT)の確立

### 組織のアウトプット

インスティテュショナル技術経営学研究(SIMOT)センター

社会理工学研究科、情報理工学研究科、理工学研究科、理財工学研究センター

MOT研究科を受け皿とする研究センターとして、「インスティテュショナル技術経営学」への革新を図る拠点の形成

H16  
H17  
H18  
H19  
H20

